# 雲鷹丸　第13次航 報告　大正3年7月9日～10月14日

大正3年6月22日前次巾着網鰹漁試験航海を終はりて品川に帰着後、本次航に関する諸準備に着手す。

7月 6日　出帆準備整頓す。

7月 8日　左(下)記生徒27名搭乗す。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 旭　章 | 三宅　好美 | 家坂　孝平 | 山田　盛雄 | 亀田　精一 |
| 斎藤　陽三 | 高橋　千里 | 小松　和勝 | 石崎實三郎 | 森村　共正 |
| 浦山　精一 | 峯　辰三 | 進　肇 | 白石賢三郎 | 山井　隆亮 |
| 渡邊　六造 | 山本　徳 | 日下部彦次郎 | 田代　正治 | 仙波　平馬 |
| 岡本　正一 | 中山　琢三 | 桃田　利惣 | 村上　正男 | 李　國　炫 |
| 栗田　要吉 | 津田　守規 | | | |

(注：漁撈科第18回生)

7月 9日　午前9時所長来船せられ、乗員一同に訓示を与へらる。10時半所長退船せらるると同時抜錨、汽走館山に向ふ。

7月10日　午前漁具搭載に従事す。此際ビームトロール用のビームを海中に失落したるにより、各種の方法を施して捜海したるも発見するに至らず。此日午後、館山実習場に於て本船乗組生徒体格検査を行ふ。(其成績別冊考課表に上ぐ)。生徒合原一本日乗船す。

7月11日　早朝より潜水夫鈴木大治を雇上げ、前日墜落したるビームを捜索せしめたるも発見するに至らず。偶に港内に碇泊中なりし軍艦金剛に依頼し、潜水器及其掛員並に用艇の派遣を請け、午後発見引上を了したり。

7月12日　午前0時館山抜錨、午前2時半白浜沖に至りて帆走に変ず。以後晴雨各種の天候を経、順逆諸風に対して航行中、航海運用の実習を行はしむ。

7月20日　午後琣瑤(ごよう)水道沖合より無風となり、汽走に変ず。　←琣(まい)

7月21日　午前11時根室に入港す。

7月22日　同港に於ける水産に関し、各自任意調査見学せしむ。

7月23日　東風雨を犯して根室を発し、夜半知床岬を経過する頃、東風猛烈にして濃雨あり。是より帆走に転じて各種天候風浪に応じ、適帆航進方法並に天測諸法を実習せしむ。

8月 2日　午後3時(カムチャッカ半島の)キシカ河口の西方30海里に投錨し、日没を待ち流網試験を行ふ事2時間余に及びしに、流潮南行急にして、且つ畔浪大なりしを以て、停止帰船せしむ。此夜鱒約300を獲たり。

8月 3日　早朝抜錨し、距岸15海里に至りて投錨し、鱈漁実習を行はしめ、夜に入りて鱒流網を行ふ事2回にして鱒約1,200尾を獲たり。

8月 4日　用塩尽きたるを以て抜錨し、幌筵島に向ひ、

8月 5日　早朝到着す。

8月 6日　日本漁業株式会社出張員より、塩150叺(かます)を受領す。

8月 7日　汽罐水を補充し、捕鯨艇及軽帆架等の従業中必要少き物を揚陸し、出漁準備をなす。

8月 8日　午前11時帆走出港し、夜オゼルナヤ沖に至りて投錨し、鱒流網試験を行ふ。然し乍ら高浪ありて薄漁にして、約70尾を獲たるに過ぎず。

以後、別紙漁場図に記したる航跡を取りて漸次北航し、キクチク沖に至る。其間に於て半夜克く蟹170を獲たる事並に午前僅かに3時間にして鱈2,083尾を獲たる事を最良成績とす。

8月22日　鱒漁期既に経過し、数夜前より漸次不成績を挙げ来りたると、鱈も亦既に予定数に達したるを以て帰航に決し、夜半抜錨す。

8月23日　帰航の途に於て、オパラ沖合に至りビームトロール試用する事約1時間にして蟹120、鰈480尾を獲、缶詰を製す。其夜12時幌筵(島)村上湾に帰着す。

8月25日　残塩27叺を日本漁業出張と同5叺を前年借用の神坂彦右衛門に返付す。

8月26日　用水搭載。

8月27日　前に揚陸せる端艇、軽帆架等を搭載し、各復旧装置をなして遠航準備成る。

8月29日　好風を得、帆走出航す。夜半幌筵海峡に至りて不定微風の為、数時間汽走して同海峡を通過したる後、再び帆走に変ず。是より連日適風あり、帆走1週間にして、

9月 5日　午前11時樺太大泊に到着す。本航海に於て、前年来屡認めたる怪光の鰊群より生ずるものなるを実見し得たり。

9月 6日より鎌田技手指導の下に、生徒をして付近漁場見学調査を行はしむ。

9月 8日　午後3時北西疾風に乗じて抜錨帆走、小樽に向ふ。

9月 9日　午前3時宗谷海峡に至りて風向不定、天候不良となりたるを以て汽走に転じ、正午利尻島鬼脇錨地に寄港す。

9月10日　午前0時天候快復したるを以て出港し、無風の為め汽走す。午後3時小樽に入港す。

9月11日　鎌田技手生徒を引率して高島水産試験場に就て見学せしむ。

9月13 14日　両日間生徒をして札幌見学をなさしむ。

9月16日　午前8時小樽抜錨汽走、神威岬沖に至りて適風を得、帆走に変じ、

9月17日　正午奥尻海峡を経過す。

9月18日　津軽海峡に至りて風凪ぎ、夜半より汽走に転ず。

9月19日　午前8時青森に入港す。本日浅野嘱託乗船、測量機受領。生徒は各自任意見学せしむ。

9月21日　天候陰暗にして不良なりしも、函館に回航して快復を待つは寧ろ便宜なりしを



13-2 (59)

以て、午前8時青森を発し、午後5時函館に到着す。

9月23日　午前8時函館を発し、9時港外より帆走に転ず。是より順風帆走中、別紙図上で上げたる４点に於て調査を執行し、

9月25日　午前9時鍬ケ崎に入港す。同日より鎌田教官指導の下に、付近に於ける漁場、大謀網等に就て、実地調査をなさしめ、又宮古水産学校に就て見学せしむ。

9月28日　夜半鍬ケ崎港を発し、山田沖より各25海里に於て調査を行ふ。

10月 1日　金華山の東方210海里に於て暴天に襲はれ、荒天航法を行ふて漂ふす。其夕景に至りて大浪甲板を侵す事間断なく、船の動揺激甚を極むる事数時間に渡り、遂に夜8時に至りて一大浪の襲来に遭ふて左舷側最前方の小艇１隻は甚だしく破壊され、其櫂６本、クラッチ８個と共に奪却せらる。夜半に至りて漸次沈静に復し、

10月 2日　正午再び静穏に帰す。是より海洋調査を継続す。

10月 5日　正午荻ノ浜に入港す。本日より鎌田技手指導の下に生徒一同をして付近漁場に布設せる機械網見学をなさしむ。

10月 6日　夜9時荻ノ浜出港。田代島より南々東方海洋調査を開始し、別紙航跡図に挙げたる諸点を観測す。

10月11日　午前10時館山に入港す。

10月12日より館山倉庫に格納せる本船用漁具整理並に本船搭載漁具ドーリー等陸上方等と従事す。

10月14日　漁具整理を終はり、午前8時半出発、午後2時品川到着す。

右及御報告也

大正3年10月　　日

雲鷹丸船長　浅利孝爾

水産講習所長　下　啓助殿



(3-3 (64))